

『切り絵アートによるメンタルヘルス・リフレッシュ・サポートの試み』

立石 洋二郎 (TATEISHI Yojiro)
医学部

1. 『切り絵アートによるメンタルヘルス・リフレッシュ・サポートの試み』

今や芸術の領域では、パソコンやコンピュータなどデジタルを使用し、絵画やデザイン、いわゆる芸術分野において、ソフトの開発は目覚ましいものがある。一方、アナログは人の手による感性と技術力を高めることで、芸術の向上につながり評価されると考える。

今回の症例では、切り絵は自律神経が整うと言われており、精神的な領域でも、切り絵アートの製作過程において「心が落ち着く」「無心になれる」「会話のきっかけができる」との実際を聞いている。今回、切り絵アートを心療（医療）分野に役立てることが出来ないか？との考えから、『切り絵アートによるメンタルヘルス・リフレッシュ・サポート』の試みを行ったので紹介する。

2. 症例

佐賀大学医学部附属病院に勤務する技術系男性職員

3. 症状

同僚との関係がうまくいかず、心痛していて、気持ちが沈んでいる

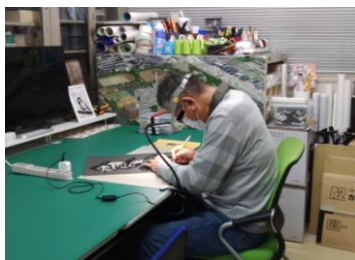
4. 相談を受けてからの指導と目標

2023年6月27日、当時の副病院長より「当職員に自律神経が整う切り絵を教えて欲しい」との依頼から、男性本人と面談し「切り絵アートをやってみたい」とのことで、早速、7月3日指導を始めた。

同年8月3日～4日、佐賀市歴史民俗館旧古賀銀行での『切り絵アートの魅力』（切り絵アート倶楽部主催）に展示する目標を決めて、7月3日～29日（延べ7日／17時間）の製作過程を終えた。

5. 結果と考察

当日の発表にて述べる。



製作中の男性職員



制作した作品



展示開催チラシ



当日の会場内の様子